

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390200097		
法人名	有限会社 福寿荘		
事業所名	グループホーム福寿荘		
所在地	熊本県八代市井揚町2552		
自己評価作成日	平成27年3月13日	評価結果市町村受理日	平成27年4月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」
所在地	熊本県熊本市中央区水前寺6丁目41-5
訪問調査日	平成27年3月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

福寿荘の理念をもとに、一人ひとりに合ったケアやペースに合わせ、馴染みやすい家庭的な雰囲気作りを心掛けております。食事の支度、簡単な家事を個人に応じた力を発揮できる場を通じて張りのある生活が送れるよう支援させていただきます。食事前の口腔体操を行い予防に取り組んでいます。食事は地元の食材、ご家族が作られた野菜の差し入れを使い、季節感を取り入れた家庭的な献立を利用者様の好みや食事形態に合わせて提供させて頂いております。地域のショッピングセンターへ外食や買い物に出かけたり、催し物へ出かけ、地域とのかかわりを大切にしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員へ理念についての意識調査を実施し、自分のケアについての振り返り、意識づけが行われている。家庭的な雰囲気づくりを心がけ、気配り・目配りのケアを目指しているが、気負いは感じられず、ホーム全体に優しい空気が漂い、利用者の安心した顔が見られた。日々の暮らしの中で最も重要と思われる、快食・快眠・快便へ配慮し、地元の野菜を多く取り入れた家庭的な食事が、利用者の食事形態に合わせて提供されている。職員も各テーブルに1人ずつ着いて、利用者と同じメニューを食べながら食事を楽しんでいる姿が見られた。また、歩行が困難な利用者も、2人介助でトイレや入浴支援が行われており、労力を惜しむことなく取り組んでいる姿が見られた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	リビングに掲示し、全体会議の前に唱和している。理念をもとにどのような思いで実践につなげているか、職員に意識調査を実施、ケアの振り返りを行い、日々の支援に取り組んでいる。	前管理者と職員の話し合いの基に作られた理念が、事務室やリビング・廊下に掲示され、新入社員に説明している。尚、全職員を対象に理念についての意識調査を実施し、自らが提供するケアの振り返りと、質の向上に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、回覧板も回ってきており、日常的に交流している。ホーム行事の時、招待状を配布し参加を呼び掛けている。	町内会へ参加し、回覧板も回ってくるが、近くに民家が少なく、行事への案内を家庭訪問して渡すも、運営推進委員さんの参加に止まっている。何年も続けている、地域消防団への避難訓練への協力依頼が、今回は快諾を得て協力体制が整った。また、地区の班会議や運動会への参加・保育園児を敬老会へ招待したり、懐メロ愛好会の来訪を受ける等、理解に繋がる努力が見られた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座を受けられた地域の方に傾聴ボランティアに来ていただき、交流を通じて、認知症の理解に繋がっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、情報交換、報告を行っている。地域住民や町内の消防団との避難訓練を行ったことで、意見交換ができた。	会議は町内会長・家族・民生委員・老人会長・行政と包括職員の出席を得て、2ヶ月に1度開催され、写真付きの活動報告・意見交換等行われており、発言の内容・氏名まで詳細に記録がされている。また、推進会議の日に消防団、近隣の住民の参加を得て避難訓練を実施し、地域との交流にも繋がられている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	問題点や疑問点がある時は、市町村へ出向いたり電話にて随時担当者に聞き助言を頂いている。運営推進会議委員として、毎回参加して頂いている。	運営推進会議への参加を得たり、地域の情報がメールで提供される等、気軽に相談できる関係となっている。また、包括支援センターの呼び掛けで、地域ケア会議(ホーム・小規模・認知症デイ)が、4月から開催予定されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修で身体拘束となる具体的な行為や弊害について理解している。玄関は施錠せず、利用者一人ひとりの行動の把握に努めている。	外部研修等への参加で身体拘束について理解し、実践に取り組んでいるが、職員の勤務体制によっては「待って！」等の言葉が出てしまう状況にある。玄関等の出入り口への施錠は無く、外に出る利用者は、引きとめるのでは無く、職員が付き添う等の見守りでの対応が行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修等に参加し、虐待についての意識を再確認し、利用者の尊厳を大切にすることを心掛けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	グループホームブロック会での研修に参加し学んでいる。参加できなかった職員にも資料を配布し理解して行けるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は利用者契約書・重要事項説明書を読み上げ説明を行っている。不安や疑問点を尋ね、理解、納得を図るよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の関わりの中でご利用者のご意見やご要望に応え、面会時にご家族に訊いたりしている。運営推進会議で外部者へ報告し、全体会議で職員へ報告し運営に反映させている。	日常の会話で利用者の意見や要望を聞き取り、要望には早急な対応に努めている。家族の面会時などには利用者の日頃の様子等伝えながら、意見や要望・提案を受け、職員間で話し合い対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表が管理者を務めている為、日頃から現場に入り職員の意見や提案等把握できる体制になっている。全体会議でも意見が出やすくなるような雰囲気作りに努めている。	月1回の全体会議を実施し、意見や提案を受けられる体制づくりができています。職員数が少なく、日常的なケアの中で、疑問や提案を受けながらケアのやり方を話し合うよう心がけている。また、スカートを着用している利用者の体力低下による行動変化に、「ズボンの方が安全では」との意見が出され、家族に依頼した事例もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表は職員個々の勤務実績等の把握をしており、向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。職務への意欲、研修への参加意欲や参加状況等を評価している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修への参加を奨励し、参加費用等を会社で負担している。資格取得希望等は相談に乗り、勤務調整して支援している。各自が向上心を持って働けるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県や地域の連絡協議会へ加入し、研修や親睦会に参加し、情報交換を行いサービスの質の向上に繋げている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	笑顔で寄り添い、傾聴しながらご要望等を探りながら、安心と信頼関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からの情報やご要望等を聞き、ご家族の思いがケアに活かせるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人のこれまでの生活習慣や今必要な事、ご家族が要望していることを支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事等を一緒に行うことによって教わったり、困難な場面では支援しながら共に楽しく暮らせるよう努めている。利用者様同士で手助けする場面も見られる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や遠方の家族へは電話で生活状況をお伝えしたり、毎月、担当職員より「生活状況報告書」を郵送している。ホームの行事へも参加してもらい、共に本人を支援していく関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お正月に外泊支援が出来た。ご利用者のなじみの病院への通院支援や、行きつけの美容室を利用されたりご家族による散髪ができた。	家族との関係を保つため、外泊支援や家族の協力による病院受診・行きつけの美容院へ行く等、途切れない関係支援が行われている。また、地域の祭り際には、ホームの前に来て演じてもらい、馴染んだ祭りを楽しんで貰う等の支援が実施されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の関係を把握し、職員が利用者間に入り双方の会話を繋げるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了したご家族に入居者の理美容を依頼し、快く承諾していただく関係が続いている。入院されお見舞いや様子伺いに出向いたり、退去されたご家族とお会いすると、近況を伺ったり気軽に挨拶が出来ている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者ごとに「気づきシート」を用意し、職員の気づきを記入するようにしている。「目配り・気配り」で見守りながら思いや意向をくみ取るように努めている。	日常の会話や「気づきシート」による利用者の状態把握に努めている。訴えのできない人は表情や仕草での判断や、食事の量や便通の様子で身体の変化を見極める等、本人が心地よく過ごせるための工夫が見られた。	「気づきシート」の利用が少ないように思われたので、今一度活用方法の検討し有効利用を期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の利用事業所や居宅介護事業所から情報を頂いている。入所後、本人が語られた言葉等を面会時に家族へ投げかけて、より深い生活歴を聴けるように努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝バイタル測定を行い身体状況を把握し、申し送り、記録の徹底をしている。心身の状態を把握しながらケアにあたっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議でご利用者の状態を共有し、意見や気づきによりプランを立案している。細かい修正は日々のケアに反映している。	本人・家族から聞き取りを行い、職員会議で話し合いケアマネが計画を作成し、面会時家族に説明を行っている。鍼灸師による訪問リハビリも実施されている。「ばたから体操」等計画されているが、職員不足で毎日の実施はできない状況にある。3ヵ月毎のモニタリング実施や、毎月の会議で出た気づきは都度プランに反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護記録を作成し、日々の様子、本人の発せられた言葉、行事での様子、変化を記録している。申込表を利用し出勤時間毎に職員間での情報伝達を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問歯科、鍼灸師による訪問リハビリを取り入れている。家族の要請があれば通院介助を行っている。遠方のご家族の場合、入院中のご利用者の選択や着替えを届ける支援も行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	敬老会には近隣の保育園児に参加して頂いた。毎週土曜日は地区の民生委員の方々に協力を得ながら傾聴ボランティアに来ていただいている。町内の子供会の子供神輿や妙見祭の花奴の演舞や飾り馬に来荘いただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の協力を得て、在宅時からのかかりつけ医への定期受診を支援している。受診時に生活状況、バイタル表等の情報を主治医に提供している。ご本人、ご家族のご希望、心身の状態により往診可能な体制にもなっている。	入所前のかかりつけ医を継続受診している。定期受診は家族が対応し、介護タクシーを利用する家族もあり、かかりつけ医の勧めで往診のできる病院への変更も多くなり、ほとんどの利用者が往診の利用となっている。また、「訪問介護事業所」と契約しており、週1回訪問看護師による健康チェックを受け、利用者の健康管理が図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護事業所と契約して24時間連絡出来る体制が出来ており、日々気づいた事を訪問看護師へ相談している為、適切な受診や治療が行えている。訪問看護師による健康チェックも実施されている(1回/週)		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は情報提供書を出している。常に病院へ出向き状態を把握したりご家族と連絡を取り合っている。病院とご家族の話し合いに同席し、早期退院に向けて連携を取っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や終末期に関しての方針をご説明している。医療的処置が必要になった場合に医師やご家族と話し合い、ホームのできる最大の支援を行うようにしている。	看取り希望のご家族に対し、医療面での対応、スタッフの体制に制約があり、主治医・訪問看護師の協力を得ながら、その時その時の状況に応じて事業所で出来る範囲の対応を行う事を伝えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急法や事故発生時の対応については外部研修に参加しているが、全職員が適切な対応ができるかは不安がある。訪問看護師、かかりつけ医と連携し早期対応に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回訓練を実施している。町内の消防団、近隣住民、近隣施設、運営推進委員メンバー、点検委託業者、消防署の協力のもと行った。ご利用者の避難誘導や消火訓練と一緒にいった。	年に2回、利用者と一緒に避難訓練を実施している。今回は運営推進会議開催日に避難訓練を実施し、運営推進委員・消防署・近隣住民に加え、初めて地域消防団の参加を得ての実施となった。また、火災通報機器点検業者の説明を改めて受け、職員への周知が行われた。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	苗字にさん付けで呼んだり、下の名前と呼んだりご利用者に馴染みの言い方で対応し、わかりやすい表現を心掛けている。	家庭的な雰囲気ですれすれしくならない態度を心がけ、言葉かけや表現が利用者を尊重したものになっているか、振り返っている。職員に時間のゆとりが無く、丁寧な言葉かけができていない場合もあるようだが、利用者に分かり易い、優しい方言を使用している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でご利用者の思いや希望を引き出せるような言葉かけに努めている。自己決定が出来られないご利用者にも声掛けし意志を尊重するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者一人ひとりのペースを把握しながら、起床、食事、入浴、就寝等を支援している。重度の方においては、不快の除去や安楽を基本に支援を行っており、その人らしさを大切に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴準備の服選びは、職員が選んでいる。外出時の身だしなみを支援し、季節に応じて調整している。いきつけの美容室へ白髪染めに行かれたり、訪問美容を受けられるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な方には野菜の皮むき程度と、片づけはお盆を拭いてもらっている。状況に応じて茶碗洗いを願うことも。調理が出来られない方は味見をしていただくことで、調理の楽しみを支援している。	メニューはインターネットで検索し、ホームに合ったメニューを作成し、職員が調理している。ミキサー食や刻み食・お粥などその人に合わせた食べやすい形態になっており、殆どの人が完食している。職員も一緒に同じテーブルに着き、介助しながら同じ物を食べる姿が見られた。また、家族や近隣の農家から野菜の差し入れもあり、料理に利用している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合った形態で提供している。毎月、体重測定を行い体調管理を行っている。食事・水分摂取量は毎食後記録し、把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの口腔状態に応じたケア、本人の力に応じたケアを行っている。訪問歯科による、口腔ケア、相談、指導を受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握しており、日中は重度の方もトイレでの排泄を支援している。夜間は状態に応じポータブルトイレを設置。昼・夜や状況に応じた排泄用品の使い分けを行い、自立や気持ちの良い排泄に繋げている。	食事前やおやつ前のトイレ誘導を習慣づけている。車イス利用者も2人介助でトイレの便座を利用し、排泄されるまで待つことで自然排便を可能としている。排便後は温タオルで清拭し、快適な排泄支援を心がけている。介護度が5と、重度の利用者も昼間はトイレで排泄、夜は大きめのオムツを使用して快眠に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	特に繊維質の多い食材や、バナナや乳製品、乳酸飲料を使用して自然な排便を促している。また、水分の摂取量を把握しており、対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	最低週3回入浴できるようにしている。汚染時にはその都度入浴やシャワー浴で対応し清潔保持に努めている。個々のADLに応じ、一人介助と二人介助で支援している。季節に応じ菖蒲湯、ゆず湯、バラ湯を利用して頂いている。	入浴は週3回、1人介助の日、2人介助の日と介護度に合わせた支援が行われている。お湯は掛け流しで、浴槽にゆっくり浸かって欲しいという管理者の思いで、職員の負担はかかるものの、2人介助を実践している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者の状態に合わせ、日中の体操やレクリエーションを取り入れ、夜間の安眠につながるように努めている。車椅子生活が長い方は自室で休んで頂く時間を取っている。夜間の部屋の温度や湿度にも気を配っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員がご利用者一人ひとりの服薬情報を把握できるようにファイルを準備いつでも確認できるようにしている。変更があった場合は、訪問看護師に報告し、職員間では口頭や連絡ノートで情報共有に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	野菜の皮むきや洗濯たたみやお盆拭きを手伝って頂いている。十分に本人の希望、意志を引き出すのが難しい方もいるが、外出支援、カラオケ、地域の行事、週一回地域住民が来荘しコミュニケーションを取って頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候が良い日は近隣への散歩や屋外でおやつを楽しんで頂いている。ショッピングセンターへ外食や買い物に出かけている。ご家族の協力で定期受診後に外食をされる方もいる。身体機能の低下により外出が困難な方が増えてこられた。	利用者の高齢化が進み、外に出掛ける支援や、リビングから外の風景を楽しんだり、外庭でのおやつを食べたりなど、外の空気を感じる機会を作っている。また、気候のよい日は、車椅子で近隣の散歩に出掛け、アジサイ・菖蒲・桜の花見等、日替わりで出掛ける支援も行われている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員と一緒に買い物に行った場合、できられる方はレジで支払いを支援している。希望に沿い、ご家族の了解を得て、一部所持されてる人もいるが、ほとんどの方は自己管理が出来られないため、職員で管理し、定期的にご家族へ残金確認、サインを頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者が自ら電話をしたり、手紙を書くことが困難な方がほとんどで、支援ができていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間が一望できる間取りになっており、職員とご利用者が一緒にくつろげる場所となるようにソファを配置している。必要に応じ遮光したり、室温、湿度の調整、換気を行っている。	玄関には、地域の人々の折り紙細工作品やキティちゃんの置き物が飾られており、畳敷きのスペースには、テレビとテーブルがあり、大きなソファでゆったりと寛ぐ利用者の姿がみられた。フロアの大きなガラス窓から明るい陽光が入り、目の前には田んぼが広がって、田植えから稲刈りまで眺めることができ、四季の移ろいが楽しめる。台所からは調理する音や匂いが流れ、家庭的な雰囲気が漂っており、静かで明るい穏やかな共有空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご本人が落ち着かれる場所でテレビを見られたり、新聞を読まれたりしている。移動が困難な方は声掛けし、状況に応じて落ち着かれる場所へ誘導し、気持ちよく過ごしていただけるよう気配りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族写真・馴染みや思い出のある家具や物を置き、その人らしく安心して落ち着いて過ごせる居室作りをしている。	どの部屋も、窓から田園風景が眺められ、落ち着いた雰囲気となっている。それぞれにテレビや整理ダンスが置かれ、カレンダーや家族写真が掛けられた部屋や筆筒の上に、香炉とリンが置かれている部屋もみられた。窓には目隠し用の小さなカーテンが職員の手づくりで掛けられている。使い慣れた寝具が持ち込まれ、昼間は職員が窓を開け換気する等の気配りも見られた。また、ベッドは苦手という利用者には畳を敷き、マットで対応する等の配慮が見られた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室のドアには名札や写真を貼って目印にしている。標示をすることで自立した生活が送れるように環境整備している。		